

8月5日～ 八ヶ岳 (岩コース)

森本 竜二

山名	八ヶ岳 (編笠山、権現岳、赤岳)	山行名	夏山合宿八ヶ岳岩稜コース			
ルート	富士見高原-編笠山-青年小屋 (泊) -権現岳・赤岳-赤岳天望荘 (泊) -美濃戸口					
山行日	2022年8月5日～7日	天候	晴れのち雨、その後晴れ			
参加者	リーダー： 森本 男性：中田、若林、西川 女性：北條、玉置 合計： 7名 サブリーダー：藤村					
ルート概略図	コースタイム					
	地名	時：分	地名 時：分			
	富士見高原	集	赤岳	着	14：55	
		発		11：11	発	15：28
	編笠山	着	16：05	赤岳天望荘	着	16：08
		発	16：34		発	07：05
	青年小屋	着	17：00	行者小屋	着	08：25
		発	07：30		発	08：46
	権現岳	着	09：22	美濃戸口	着	11：14
		発	09：43		発	11：17
	キレット小屋	着	12：08	八ヶ岳山荘	着	12：10
		発	12：26		発	
	山行報告 3日間タイム 19：46 距離 18.4km 上り 2160m 下り 2009m ゆっくりペース 50～70% 大型貸し切りバスで京田辺市を定刻6時に出発。彦根あたりで大雨にあったが、その後の天候回復が期待できた。11時に南八ヶ岳縦走の登山口富士見高原に到着、天気は晴れ。 八ヶ岳の南端に位置する編笠山を目指し、苔むす樹林帯を登っていく。視界が広がると大きな岩がゴロゴロ堆積している「ゴーロ」が待っていた。マーキングを頼りに確実に高度を上げる。ハイマツ帯を抜けて山頂に到着。一瞬赤岳、阿弥陀岳が見えたがすぐにガスに覆われてしまった。コースタイム 30分で青年小屋だが、雨が降り始め濡れた「ゴーロ」を慎重に降りていく。 一晩中降り続いた雨も朝方にはやんだが、赤岳までの難所キレットと急峻なルンゼを安全にクリアできるか？少し体調を崩したメンバーもいて、全員で協議した。遭難救助も行っている小屋番さんの意見も参考にし、計画通り出発した。権現岳を降りるとすぐに 61 段の源治梯子が待っていた。難所の始まりだが時折見える赤岳を目指し鎖場・梯子をクリアしていく。最後のルンゼと思い登って行くがその後ろに又頂が……。7時間かけて赤岳登頂、山頂で景色を楽しみ赤岳天望荘へ。夕食後にメンバーの熱発があり、部屋を隔離する。山小屋スタッフ用の抗原検査キットで陰性を確認した。翌日はメンバー全員の疲労を考慮し、横岳方面は中止して美濃戸口へ下山した。美濃戸口で易コースメンバーと合流、バスの待つ八ヶ岳山荘へと向かった。					
	ヒヤリハット:山行中の熱発者への対応					



左上 富士見高原から編笠山へは苔むす樹林帯を登っていく 8/5 (金) 15:11

上 「ゴーロ」が続く 8/5 (金) 15:44

左 一気にガスった編笠山山頂で記念撮影 8/5 (金) 16:24



左 権現岳すぐの名物「源治梯子」61段 8/6 (土) 09:50

左下 赤岳天望荘前で記念撮影 みんな元気そうに見えますね 8/7 (日) 06:59

下 下山途中からの赤岳 8/7 (日) 07:44



## 八ヶ岳 岩コース 感想文

中田 繁男

2013年夏山登山は八ヶ岳に参加していました。岩コースとスタート地点が同じでしたが以前とは大きく違いました。八ヶ岳縦走の怖さ、体力、技術等が未熟な入会3年目で9年前は殆ど何も知らないで参加していました。今回の企画があった時は長い梯子くらいしか思い出さず、前回は無我夢中で早朝4:30から17:30ヒュッテ夏沢着まで13時間先輩方に叱咤激励された為、記憶が飛んでしまっていました。

2日目の青年小屋で相当悩んだ末のGO判断が良く、天候はどんどん回復して青空が垣間見えるくらいになった。9年前とは脚力、体力がどれ位落ちたか確認しながらの山行です。ガレ場のギボシから権現岳の岩壁が始まり61段ゲンジー梯子は新しく付け替えられて安全!!キレット小屋で休憩して目の前の赤岳(標高差約400m)ルンゼ状の岩場の核心部がやってきました。岩壁の鉄梯子や聳えた岩場に取り付いて足場を見ると、前回の登りが蘇り「ここで足を掛けて指導を受けたとこだ!」標高差があり眼下のガス状の雲が全回は見ることがなかったが、流石に今回は下界を堪能する余裕がありました。(笑)最後の岩場の難所は何回も続く感じの八ヶ岳縦走は、ノコギリ歯の岩の稜線を越えるようなものです。連続する岩登りは面白かったです。(汗)約7時間はあっという間でしたが、剣岳の経験から2回くらい往復出来るくらいハードでした。登山客が沢山見えました。体力は余り落ちていない感じなのでまだまだ行けそうな気力が出てきた。流石に濡れた岩場も多く神経を使い疲れが山頂に到着したところから出てきて、辛かった登りを思い出した。今回は前回の約半分のコースタイムとして頂き、前回の健脚無謀なコースタイムは避けられました。3チームに別れての山行は全チームが無事に合流できた安堵感は何とも言えません。企画して頂いた藤村さんお疲れ様でした。

玉置 安世

天気予報は雨マーク。でも雨は降りそうにない。足取りも軽く樹林帯を登る。この登りは一体いつ終わるだろうか?CLのMさんのさぁ～行きますよ～というかけ声に励まされる。森林限界からは岩岩続きでやっどこさ編笠山へ。赤岳も一瞬で見えたかと思えば雲に隠れる。小屋目前で雨に降られてぼとぼと。晩ごはんのアジフライに豚汁の手作り感がうれしい。さすが遠い飲み屋だけのことはあるお酒の瓶がずらり。明日何もなければ飲みたいところ。夜中は恐ろしく雨が降っていた。明日行けるのだろうか?

次の朝も小雨ぱらぱら。1時間近く検討会。下山した方がいいのか。また赤岳はお預けなのかな?幸いにも雲がきれてきた。行くぞ～行っても行っても岩と鎖と梯子の連続。唯一ガスっていたので高度感がなくてよかった。さすがの岩好きの私ももうお腹いっぱい。にせ赤岳も乗り越えやっどこさ赤岳の山頂に着くも真っ白け。登れただけラッキーと思おう。赤岳展望荘は迷路のよう。自分の部屋がわからなくなりそう。食堂からは夕焼けに富士山も見えた。お約束のビールにお酒。夜中は前日と違って恐ろしく風が吹いていた。

日の出は4時20分。この高さだから日の出はきつときれいはず。外に出るも真っ白け。粘ってみる。一瞬霧がきれて太陽が顔を出した。ブロッケン現象なるものも見れた。霧も晴れて快晴。赤岳もきれいに見える。今日は下山のみ。横岳も名残惜しいけどまた今度ね。下山段々赤岳横岳が見えなくなる。何だかすごく長いこと山にいた気がする。楽しいのと貴重な経験の出来た山行でした。同行のみなさまありがとうございます。SLのFさんも懲りずに八ヶ岳を企画し続けていただいております。念願の赤岳に登れました。

ゴールで出迎えてくれた馴染みの顔を見てほっとする。温泉で3日ぶりのお風呂に入って人間に戻るのでした。また来年!